

熊本大学 脳神経内科

キャリア形成・専門医養成 特別プログラム

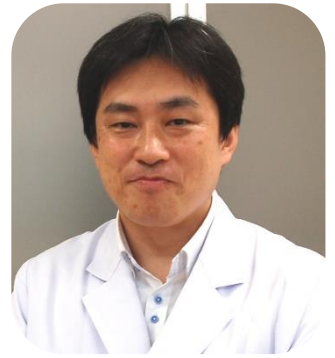
2025



芦北 うたせ舟

ご挨拶

熊本大学大学院生命科学研究部脳神経内科
教授 植田 光晴



熊本大学 脳神経内科 キャリア形成・専門医養成特別プログラムをご覧いただき心よりお礼申し上げます。

本格的な高齢化社会となり、脳神経内科に期待される役割は極めて大きくなっていますが、幸いにも熊本大学 脳神経内科は、長い歴史と実績を基盤として、高い専門性と幅広い診療を実践するメンバーが揃っています。また非常に充実した教育病院群を持つことは、我々が教育面で提供できる最も大きな財産です。急性期から慢性期、コモンディーズから希少難病まで、温かな先生方の下で安心して研鑽を積むことが出来ます。

脳神経内科の最も誇れるものは、知識と技術に基づいた正確な診断スキルです。脳神経内科医としてスペシャリストを目指す先生方に加えて、将来的に総合診療やプライマリケアを高いレベルで目指すジェネラリストの先生方も神経診察の習得は必須と考えます。当教室では、多様な研修が可能なプログラムを準備しています。これまで脳神経内科領域の診療は、わからないことが多く、治療法も限られていました。しかし、医学の進歩と共に脳神経内科領域の診療は大きく変わろうとしています。将来的に神経疾患に対する治療選択は増えてきます。先進的な核酸医薬や、バイオ分子標的薬など、すでに多く実用化されています。脳血管障害に対する血管内治療の実践に伴い、脳卒中診療の常識は変わりました。これから、認知症に対する新規治療法が臨床応用され、神経難病に対する治療薬も開発されると思います。頭痛やてんかん診療も新しい治療薬の登場と共に大きく発展すると期待できます。

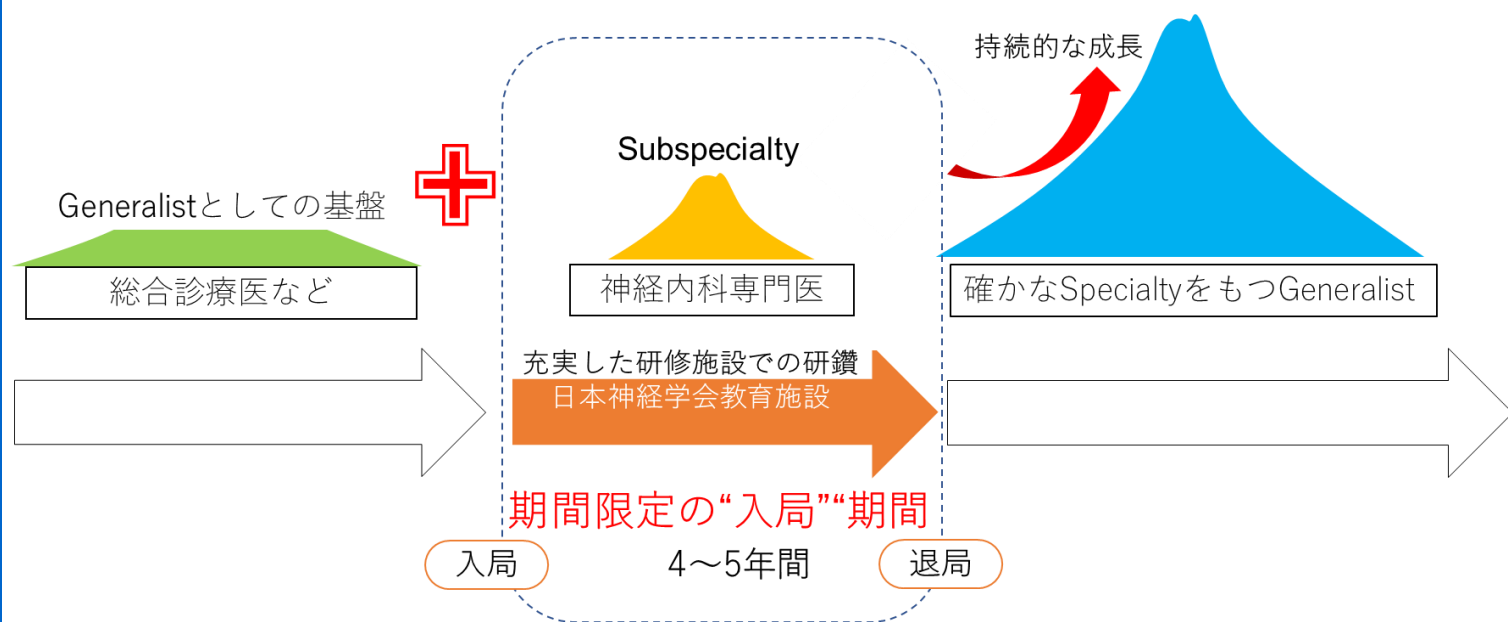
熊本大学 脳神経内科は、共に活動してくれる先生方が安心して研鑽を積み、充実した医師人生を過ごす一助となることを願っています。是非、仲間に加わって頂けることを心より願っております。



「神経内科専門医」養成 特別プログラムのご案内

-期間限定の研鑽で Subspecialty をプラスする選択-

総合診療医，救急医，一般内科・外科医など Generalist として既に研鑽を積まれてきた先生方を対象に，Subspecialty として脳神経内科の知識，技術を身に付け，「神経内科専門医」を効率的に取得いただく斬新なプログラムを開発いたしました。



日常診療でしばしば遭遇する神経系の Common disease に適切に対処でき，多彩な神経・筋疾患に対する専門性を持つこと，“神経内科専門医”を取得することは，大きな Upskilling，持続的な成長につながります。このような「Specialty を持った Generalist」のニーズは非常に高く，治療・研究の進歩が目覚ましい神経領域を専門とすることは，将来性を高める選択です。

Win-Win

<参加する先生のメリット>
総合診療医として確かなsubspecialtyを得られる

<医局のメリット>
より大きな診療ネットワークを維持できる

専門医の取得には一定の期間，神経学会指定の施設での研修が必要であるため，従来，卒後に脳神経内科に“入局”して研鑽を積むコースが一般的でした。熊本大学脳神経内科と熊本県全域の充実した教育病院群のネットワークを活用することにより，皆様のこれまでのキャリアを生かし，安定して勤務しながら短期間（4～5年程度）で効率的に専門医取得が可能です。従来の“入局”とは異なり，専門医取得後は“医局人事”に縛られることなく皆様が描かれる自由な将来設計を応援いたします。

熊本大学脳神経内科だからできること

◆ 熊本県全域の魅力的な教育病院群

熊本大学脳神経内科と関連病院では、急性期から慢性期、コモンディーズから希少難病まで、非常にバランス良く脳神経内科疾患の診療を学ぶことができます。充実した脳卒中急性期病院、神経難病拠点病院、リハビリテーション専門施設、地域拠点病院など、国内でも有数の教育病院群で脳神経内科専門医取得をサポートします。幅広い脳神経内科診療を高いレベルで実践することが出来る真の実力を得られると確信します。

<熊本大学脳神経内科の関連病院>

脳卒中急性期病院

済生会熊本病院
熊本赤十字病院
熊本医療センター
熊本市市民病院

難病拠点病院

熊本再春医療センター
熊本南病院

地域中核病院

大牟田天領病院
荒尾市立有明医療センター
山鹿中央病院
杉村病院
西日本病院
くまもと南部広域病院
そよう病院
熊本総合病院
熊本労災病院
水俣市立総合医療センター
宇城総合病院
阿蘇医療センター

リハビリテーションセンター

熊本機能病院
熊本託麻台リハビリテーション病院

- 熊本大学病院
- 脳神経内科 関連病院
- 外来診療応援病院など

外来診療応援病院

くまもと県北病院
菊池郡市医師会立病院
天草地域医療センター
など

熊本大学病院



熊本医療センター



熊本赤十字病院



済生会熊本病院



熊本市市民病院



熊本再春医療センター



熊本機能病院



◆ 安定した勤務環境、恵まれた生活環境

常勤スタッフとしての安定した勤務環境が保証されます。休日は、森と水の都熊本、阿蘇、天草など恵まれた環境でリフレッシュできます。

◆ 将来性、専門医取得後の進路の自由度の高さ

脳神経疾患の診療は将来的にますます重要になります。専門医取得後は、医局に縛られることなく各人の進路を応援いたします。志向する専門性の研鑽、留学、開業などサポートします。

熊本で活躍する脳神経内科医のご紹介

高松 孝太郎（平成 15 年熊本大卒、熊本医療センター脳神経センター）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

平成 15 年 3 月に熊本大学医学部を卒業後、同年に神経内科に入局しました。平成 15 年は現在の臨床研修制度が始まる前の最後の年であり、神経内科に直接入局した最後の年度です。当時は今の制度とは異なり、学生のうちに入局先を決める必要があり、単純に脳に対する興味で神経内科を選択しました。入局後は熊本大学病院、熊本市市民病院、熊本医療センター、大牟田天領病院、熊本再春医療センターで臨床を経験し、7 年目の平成 21 年に大学院に進学しました。大学院は神経内科に入局した同期が研究していた神経免疫学教室で iPS 細胞を用いたアルツハイマー病の治療法について研究することにしました。当時は iPS 細胞が最も注目されていた時期でもあり、深く考えることなく大学院に進学しましたが、研究方法も分からず、結果もなかなか出すことができませんでした。6 年間かけて何とか博士号を取得しました。その後は大学病院で勤務しましたが、神経難病の診断、治療を地域で普及する活動（神経難病診療体制構築事業）に従事しました。現在は熊本医療センターで主に脳梗塞、てんかんなどの神経救急疾患を診療しています。



脳神経内科を志望して思うこと

高次脳機能障害から自律神経症状（発汗障害、起立性低血圧、膀胱直腸障害など）まで神経疾患でみられる症状は本当に多彩です。脳血管内治療に興味を持ったり、iPS 細胞を使って研究してみたり、神経免疫や神経難病診療体制構築に関するプロジェクトに参加したりと、幅広い領域をカバーすることができる診療科です。神経診察は AI に取って代わられることはない技術であり、他の診療科で診断できない症例が脳神経内科に紹介されて、診断がつくこともたびたび経験します。

将来の目標

現在は救急病院で勤務していることもあり、若い先生たちに神経疾患、脳神経内科に興味を持ってもらえることが短期的な目標です。長期的には、難病患者さんが快適に在宅療養を送れるような診療が行いたいと思っています。

プログラムを検討中の先生への一言

私は脳に興味があるという理由だけであまり考えずに入局しましたが、若い先生たちは臨床研修制度で様々な診療科の長所と短所をみて入局を考えるので余計に悩むことが多いように思います。脳神経内科はファジーな部分が多く、難しいと思われがちですが、守備範囲が広く、必ず興味や得意な分野が見つかります。病態が未だに分からない疾患も多いですが、入局して 20 年経ち病態が分かり、治療できるようになった疾患もあり、今後も更に増えていくことが予想されます。まずはお近くの脳神経内科医に話しかけてみてください。

進藤 誠悟（平成 19 年熊本大卒、熊本大学病院）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

卒業後、熊本大学で初期研修医として脳神経内科をローテートした際に脳梗塞に対する血管内治療を知り、是非自分でもやってみたいと考えたのがこの道に進んだきっかけです。平成 21 年に熊本大学脳神経内科に入局後、済生会熊本病院で 2 年間、脳卒中診療の基礎を学び、平成 23 年からは熊本大学で 2 年間、全般的な神経疾患について学びました。当時は、デバイスも新しく出たばかりでエビデンスも確立されておらず、試行錯誤の毎日で、熊本ではなかなか経験を積むことが出来なかった時代でしたので、岐阜大学や兵庫医科大学の脳神経外科で脳血管内治療の勉強をして、脳血管内治療専門医を取得しました。平成 28 年に帰熊後は、熊本赤十



字病院で7年間、数多くの脳血管内治療を行い、令和4年には脳血管内治療学会の指導医を取得、令和5年から熊本大学で脳梗塞に対する血管内治療の診療や臨床研究などを行っています。

脳神経内科を志望して思うこと

私が入局した当時は、脳血管内治療を初め、神経免疫疾患や神経変性疾患などもほとんど治療方法がなく、研究もどうすれば良いのか分からないことが多くありましたが、この10年ほどで急速に進歩し、治療方法や研究も進んできており、とてもやりがいを感じています。

将来の目標

熊本は脳血管内治療専門医が全国的にみても少ない県であり、1人でも多くの治療医を育てることが目標です。また、熊本発のエビデンスが出せるように多くの臨床研究を行っていきたいと思っています。

プログラムを検討中の先生へ一言

脳神経内科分野は、他科の先生は分からないことが多く、1年勉強しただけでも自分の強みを出せる科だと思います。一方で、奥が深く、急速に進歩しているため、10年以上経っても新しい発見が多くあり、飽きることがありません。私は入局当初、全く神経疾患に興味がなく、脳卒中と血管内治療の勉強ばかりしていました。神経疾患に興味がなくても、脳血管内治療や脳卒中に興味があれば、是非脳神経内科に入局して一緒にカテーテルをやりましょう！

今村 美智恵（平成25年長崎大卒、熊本大学病院）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

長崎大学を卒業後、長野県の諏訪中央病院で初期研修と一年間内科後期研修医として勤務しました。学生時代から脳神経内科に進むことは決めていましたが、一般内科医としての基礎を身に付けたいと考え、急性期から終末期、外来や往診と幅広く経験を積める病院で研修しました。4年目から当科へ入局し、大学病院や、難病拠点病院をローテートさせていただきました。現在は3回目の育児休暇を取得させていただいています。



脳神経内科を志望して思うこと

疾患が幅広く、また同じ疾患であっても患者さんによって経過や症候が様々であり、興味が尽きない科だと感じています。診断にたどり着くまでに難しさもありますが、その分やりがいと充実度を感じます。また、日々新しい検査や治療法も見つかっており、発展目覚ましい分野です。

将来の目標

特に神経免疫に興味があり、現在分子標的薬などの導入で治療選択肢が広がってきている分野です。患者さんの背景や生活状況に応じて治療の提供や生活支援ができるよう、診療できたらと考えています。日々の診療はもちろんのこと、研究も含めて深めていきたいです。

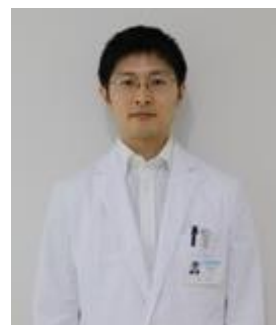
プログラムを検討中の先生へ一言

「難しい」と敬遠されがちな科かと思いますが、少しずつ経験を積む中で確実に自分の技術として成長を実感できる科です。現在私は育児のためブランクやフルタイムでの勤務ができない状況ですが、その中でも専門医取得や病棟業務などキャリア形成できるように、対応いただいています。特に女性医師の場合家庭との両立に悩まれる方も多いと思いますが、色々な勤務形態での相談も可能です。ぜひ一緒に働きましょう。

田口 智朗（平成26年熊本大卒、熊本大学大学院）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

大学卒業後、医師としての修練を奈良で8年間積み、令和4年度から熊本大学脳神経内科へ入局させていただきました。令和5年から大学院生として、植田教授のご指導のもと研究に従事させていただいております。現在は主に遺伝性アミロイドーシスの病態解析や脈絡叢にフォーカスした研究をさせていただいており、刺激的な日々を過ごしています。



脳神経内科を志望して思うこと

初期研修医の時分、私の恩師のお一人から、「眼の前の患者が教科書である。その患者から学ばずして医師としての成長なし。」とのお言葉をいただいたことを忘れられません。その影響もあって、私はこの脳神経内科を志望いたしました。脳神経内科、問診に加え、詳細な診察あるいは特殊な検査手法を駆使して眼の前の患者に生じている病態を考察するという意味で「患者から学び尽くす」ことができる診療科であると考えております。特殊な診察法あるいは検査法にしても、“その病態を明らかにしたい”という先人たちの強烈な欲求から生まれた叡智であると考えると感慨を深くせざるを得ません。そのような方法を駆使して眼の前の患者の一助となることができるだけでなく、そこから学び、新たな発見をすることができることに日々感謝しています。

将来の目標

General Neurologist を信条に、診療・研究で世の中に貢献ができるような仕事をできたらと思っています。特に新たな治療法への開発に携わりたいと思っています。

プログラムを検討中の先生へ一言

病院にもよりますが、二次救急までで言えば神経科領域の愁訴を呈する患者は非常に多くの割合を占めます。特に高齢化社会の煽りを受け患者数が増加している脳梗塞では、主幹動脈閉塞に対する IVR 治療が可能となり、患者予後が著しく改善しました。また、慢性疾患に関しても、近年では分子標的薬による免疫治療や核酸医薬による遺伝子治療も可能になってきており、治療可能な疾患が日々増えてきています。しかしながらまだまだ治療ができない疾患が多いことも事実であり、日々世界の研究者がその治療開発に心血を注いでいます。そのような昨今の実情を踏まえたと、的確で迅速な診断と治療、さらに研究領域における我々神経科医の重要性はさらに高まっていると思います。日常診療でも、研究領域でも大きな役割を担うことができる脳神経内科と一緒に頑張っていきましょう。

松尾 淳一（平成 31 年熊本大卒,熊本赤十字病院）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

平成 31 年に熊本大学を卒業。熊本赤十字病院で 2 年間の初期研修を終了後、熊本大学脳神経内科に入局しました。入局 1 年目は熊本大学病院で神経診察や診療の基礎を学び、入局 2-3 年目は熊本赤十字病院で勤務しています。熊本日赤は全国で有数の脳血管内治療を行っている施設で、充実した指導体制や症例数のもと神経救急、脳血管内治療の修練を行っています。私は熊本県地域枠で義務年限がありますが、医局や県と相談しながら専門研修ができています。当科には自治医科大や地域枠の医師も多く、それぞれの希望するキャリアプランを支援してくれます。



脳神経内科を志望して思うこと

Generalist と Specialist の両方の側面を持ち、多様性があるのが魅力だと感じています。神経診察は非常に汎用性と専門性が高く、どこで診療するにしても役立ちます。神経疾患を抱える患者さんは都会、田舎、急性期、慢性期に関わらずいらっしゃいますが、神経内科のトレーニングなしでは診断や発見が困難である場合も多く、神経診察という武器を得られる点は大きなメリットだと思います。また、急性期脳梗塞に対するカテーテル治療は患者さんの予後を劇的に改善させる切り札となっています。血管内治療は脳神経外科が主体となる施設も多い中、熊本では脳神経内科医が自分でカテーテル治療に携われる環境が整っており、診断から治療まで一貫して担当できる点は非常にやりがいを感じます。自分の武器にカテーテル治療というこれまではなかった強みをプラスできる点も今後の魅力になるのではないかと考えています。

将来の目標

カテーテル治療のできる General Neurologist

プログラムを検討中の先生へ一言

その時々自分の大切にしたいことにしっかり耳を傾けてくれる医局です。やりたいことが決まっている人はもちろん、まだ迷っている方にもきっと興味の持てる領域に出会える診療科です。ぜひ一緒に働きましょう。お待ちしております。

井村 麻由子（旧姓：千田，令和3年自治医大卒，公立多良木病院）

これまでの経歴と現在取り組んでいること

自治医科大学を卒業後、熊本大学病院、熊本赤十字病院で初期研修を終え、現在は球磨郡公立多良木病院で内科医として勤務しています。熊本大学病院で週1回、非常勤医師として勤務し、昨年度は外来診療の勉強をさせていただきました。さらに地域で勤務しながらも、九州地方会での発表や英文誌への症例報告の執筆の機会を頂きました。

脳神経内科を志望して思うこと

昨年度の外来研修で、脳神経内科は特に病歴・診察を大事にする分野だと改めて感じました。病歴から鑑別疾患を絞り、診察から病巣を考えるなど、思考のプロセスがとても面白い分野だと思います。病歴聴取において確認すべきポイントや神経診察の仕方なども丁寧に教えていただき、大変勉強になっています。脳神経内科は稀な病気を扱っているイメージの方もいるかもしれませんが、普段勤務している地域においても、頭痛やてんかん、脳梗塞、認知症、パーキンソン病など脳神経内科疾患の患者さんは実はとても多いです。日々の診療で悩んだ場合も、医局の先生方に相談してアドバイスをいただくなど、大変心強いサポートを受けることができます。自治医科大学を卒業しているため、地域医療に従事する期間もありますが、スムーズに専門医をとれるようにご配慮頂いており、とても恵まれた環境だと感じています。

将来の目標

まずは一般的な脳神経内科の診療ができるように研鑽を積んで、少しでも地域の患者さんのお役に立てるようになりたいです。将来的にはパーキンソン病関連疾患を専門としたいと考えています。

プログラムを検討中の先生へ一言

脳神経内科は穏やかな先生が多く、週1回の勤務でありながら、温かく迎えていただいております。症例の相談においても、とても親切に教えていただき、地域にいらしながらも安心して勉強できる環境だと感じています。皆さんと一緒に脳神経内科医として働ける日を楽しみにしています。



病院見学・お問合せ窓口

熊本大学 脳神経内科キャリア形成・専門医養成特別プログラムについてご興味のある方、ご質問、見学のご希望などお気軽にご連絡ください。

熊本大学 脳神経内科学講座 中原圭一（医局長）

Tel: 096-373-5893

E-mail: k1nakahara@kuh.kumamoto-u.ac.jp



熊本大学大学院生命科学研究部
先端生命医療科学部門
脳・神経科学分野 脳神経内科学講座

〒860-8556
熊本市中央区本荘1丁目1番1号
TEL 096-373-5893（代表）
FAX 096-373-5895